

カナディアンロッキー・トレッキング

2006年7月3日

久家 隆男

JTBや近畿ツーリスト等と較べると遙かに小さいが、トレッキングや登山のツアーを専門とする旅行会社が国内に数社ある。これらの旅行会社では上から下まで山のベテラン揃いで、スイスアルプスの山岳ガイドの有資格者や、ヒマラヤの登頂経験者ばかりであって、山のプロ集団である。また、ツアーの定員（催行人数）は普通の旅行会社の観光旅行のように30～40人ということではなく、最大でも15人位である。従って、ツアーリーダーによる一人当たりのサービスが質・量共に大きい。また、観光旅行は大型バスに乗って分割で広範囲の名所を移動するが、山のツアーの場合は、バス、電車、ツアーリーダーの車等で移動し、しかも歩く時間が長いので一日の行動エリアは狭い。その反面、天候、山の環境（例えば、天候、積雪量、熊の出没警報等）、道路の混雑度等に応じて計画が自由に変更できて、小回りが効く。

このような会社の中でダントツに大きいのはアルパインツアーサービス株式会社で、2位、3位がなくて、4位以下に数社あるといった感じである。私はヨーロッパアルプスをトレッキングしたときにはアルパインツアーに参加したが、今回はコースや日程を比較した上でアトラストレック株式会社という会社を選択した。後述するように結果的にこの選択が大成功だったと思っている。

私には無関係だが、アトラストレックはマッターホルン登頂等の難易度が非常に高いツアー登山がある点が異色である。

ツアーには最小催行人数というのがあり、おおよそ出発1ヶ月前にこの人数に達しないと、そのツアーは中止になる。アトラストレックではこの危険があるようと思え、私はこの点だけが事前に気になった。

出発1週間前の詳細説明会に行ってみると、なんと私一人であった。不思議に思って聞いてみると、今回は参加者が全部で僅か5人で、4人は群馬県の方なので説明会に出席できないとのこと。そこで、マイペースで説明会を行ってもらった。

VANCOUVER 経由で CALGARY に着き、迎えにきたツアーリーダーの車で ROKKY MOUNTAINS の麓の BANFF という町に入った。宿泊は BANFF と BANFF からあまり遠くない LAKE LOUISE の2ヶ所で、これらを拠点にして車で出かけ、数日だが毎日5時間前後のトレッキングを楽しんだ。（ツアー期間：6月16日～22日）

ツアーリーダーは30代半ばの日本女性であった。カナダ山岳協会ガイドとカナダスキー協会ガイドの資格を持っていて、既に9年もカナダに在住しているそうだ。従って、

カナダの山には数多く登っているようで、見える山、氷河、湖等を片端から名のいわれまで含めて説明してくれた。加えて、カナダの山は花が非常に豊富だが、花についても大変に詳しいのに驚いた。また、急坂でも息が切れることなく、足の運びが的確であって、正に山のプロであった。

我々の様なハイカーを案内するのが主な仕事だが、小屋泊まりの縦走や山スキー等のガイドもするそうだ。休みのときには岩山のクライミングを楽しんでいて、年間の入山日数は150日位と聞いた。

私がカナディアンロッキーに行ったのは、山岳風景を見たかったのだが、実際には5つもの見所があった。

第1には無論山である。ここは最高峰でも4,000mに満たないが、3,000m以上の山は無数にあって、しかも直ぐ近くを車で走ったり、2,000m以上までトレッキングしたりすることができる。穂高岳や槍ヶ岳のような岩山がいたる所にあるといった感じである。日本で言えば、ご存じない方が多いと思うが、大糸線の信濃木崎駅から築場駅までの間の西方にある小高い山（小熊山等）を林道が抜けていて、ここから後立山の連山が間近に見えて素晴らしい所がある。このような感じの道を一級国道が走っている。従って、車窓から見える連山から目を逸らす暇がない。

どの山も凄まじい岩壁を擁する岩山であって、山頂まで登るのはロッククライミングの世界である。しかし、途中までは整備されたトレッキングコースがある山もあって、我々はこの道を往復した。そこで、観光地からは見えない多くの山を楽しむことができた。

第2には氷河が多数あることである。ヨーロッパアルプスと比較すれば規模は小さいが、車で少し走れば、新たな氷河が直ちに現れる。その中で ATHABASKA GLACIER だけが、観光客のために雪上車が登っている。

第3には湖が多いことである。KANANASKIS LAKE, LAKE LOUISE, MORaine LAKE, EMERALD LAKE 等の湖畔を歩いて山に入った。また、高所から湖を見下ろすと、自然の色とは信じられない濃いブルーに見えて、下界の観光客には分からぬ風景を楽しんだ。

第4には花が多いことである。種類も多いが、花の量も凄い。たまたま、カナダ産カタクリ（色は黄色）の群落に出会ったが、足の踏み場もない位で、凄まじい数であった。（これは比喩であって、柵はないが、登山道から足を踏み入れることは絶対に許されない）

第5には動物が多いことである。山に入れば、地に穴を掘って住んでいる地リスがあちこちで顔を出す。国道に鹿が現れれば、どの車も停まって、鹿が通り過ぎるのを待っている。ツアーリーダーによれば我々はラッキーだったようで、道端で牛のようなビッグホーンシープが草を食べているのを見た。更に、ブラックベアを車窓から2度も見ることができた。高速道路ではなくても車は100km/h位で走っている。運転しているツアーリー

ダーが何かを見つけると直ぐに車を停めてくれるが、数十メートルは行き過ぎてしまう。しかし、厳しい時間制限がないツアーなので、車をバックさせて、間近で写真を撮らせてもらえた。ここでは動物の世界に人間が入れさせて戴くという思想なので、動物は人を怖がらずに無視している。

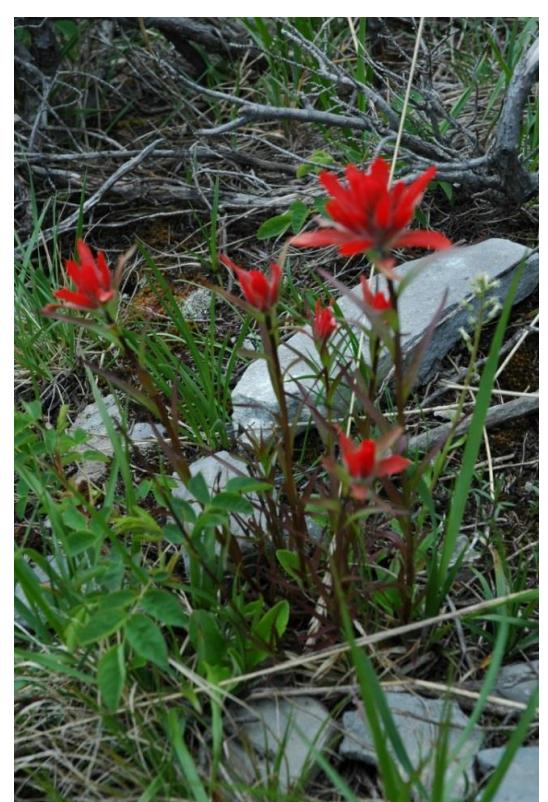
このような世界へ踏み入るには、人数はあまり多くない方がよいが、先に述べたように我々の総員はツアーリーダーを含めて僅か6人であった。しかも、他の4人は夫婦2組であって、一方の男性が腰痛を患っていて、他方の男性は喘息を患っているのに酒と煙草が大好きな人であった。飛行機の長旅で両人とも持病が出たようで、腰痛の人は山に1回しか登らず、喘息の人は山に2回しか登らなかった。また、病気のご主人に奥さんが付き合うこともあって、結局、ツアーリーダー、奥さん一人、私と3人だけで、山歩きしたことも2度ほどあった。このために団体のツアーの体を全くなさず、個人でガイドを雇ったような形になって、贅沢な山行となった。

6月のカナダは開花は始まっているが、山は残雪があり、寒いこともあって、観光客は未だ多くない。航空運賃も7～8月と較べれば安い。従って、コストパフォーマンスの大きい時期だと思う。

最後に極く一部ですが、拙い写真を紹介します。
UPPER KANASKIS LAKE (右) と LOWER KANASIKS LAKE (左) を見下ろしながら、MOUNT INDEFAGABLE というトレッキングコースを歩く途中



左 : GLACIER LILY と言い、その群落には驚いた
右 : INNDIAN PAINT BRUSH といい、あちこちに咲いている



LARCH VALLEY というコースの途中で西洋公園の様な所で昼食になった



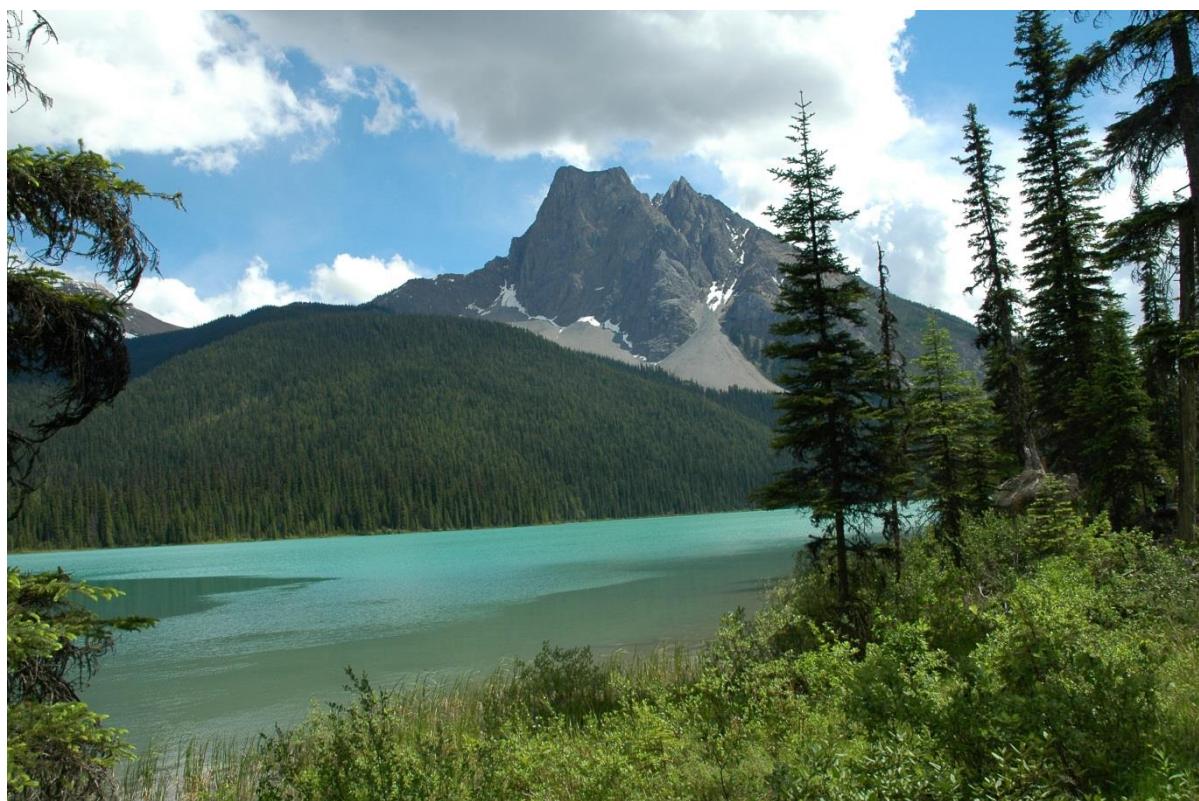
りすは人間を警戒しない



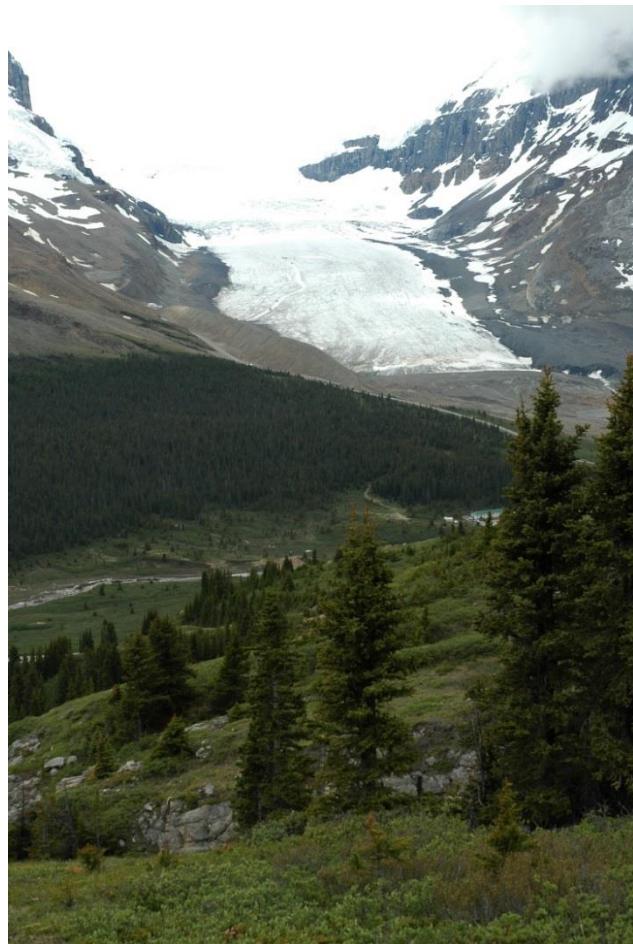
MOUNTAIN LAKE と TEN PEAKS といって 20 ドル紙幣の絵柄で有名



EMERALD LAKE という美しい湖



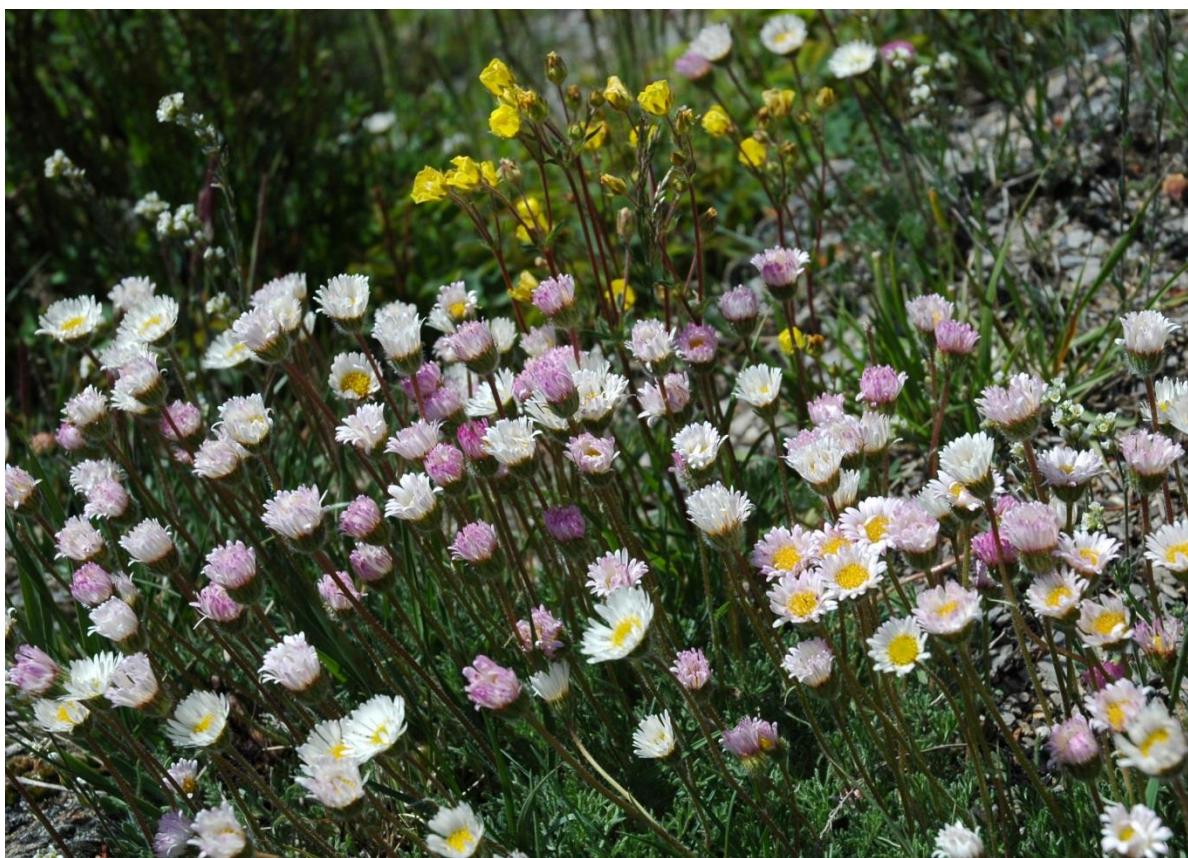
ATHABASCA GLACIER という氷河で、ここだけは観光客が雪上車で登れる



WILCOX PASS という峠で、トレッキングコースの最終地點



菊の仲間だが、名は不明



一級国道の道端にいた

